

2025年12月25日

各位

会社名 シンバイオ製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長兼CEO 吉田 文紀
(コード番号：4582)
問合せ先 IR室 (TEL.03-5472-1125)

アルツハイマー型認知症治療に関し 米国タフツ大学からIV BCVのグローバルの独占的権利を取得

シンバイオ製薬株式会社（以下、シンバイオ）は、ブリンシドホビル注射剤（IV BCV）を用いたアルツハイマー型認知症を含む脳神経変性疾患の治療薬開発に関して、米国タフツ大学との共同研究成果を基に特許出願しておりました。この度、本件のグローバルにおける独占的な事業化を目的として、タフツ大学とのライセンス契約を締結しましたのでお知らせ致します。これにより、シンバイオは当該特許出願に基づく開発および商業化に関するグローバルな独占的権利を有することになります。本特許は、特許協力条約（PCT）に基づく国際出願を完了しており、本契約は2026年1月1日付で発効します。

タフツ大学との共同研究では、神経幹細胞由来の細胞に単純ヘルペスウイルス1型（HSV-1）を感染させると、アルツハイマー型認知症の主要な原因物質であるアミロイドβの蓄積、リン酸化したタウタンパク質の増加、神経炎症に伴うグリオシスなどが起こることを突き止めました。さらに、HSV-1に感染した神経細胞を高い抗ウイルス活性をもつIV BCVで処置することにより、アルツハイマー型認知症の所見が顕著に抑制されることを発見しました。これらの知見に基づいて、アルツハイマー型認知症および軽度認知障害（MCI）に対する治療薬の開発を進めてまいります。

代表取締役社長兼CEO吉田文紀のコメントです。「この度のタフツ大学との共同研究による発見は、現在アルツハイマー型認知症の治療に用いられているアミロイドβを除去する抗アミロイドβ抗体薬とは異なり、低分子で高い抗ウイルス活性をもつIV BCVが新たな治療選択肢となる可能性を示すものです。」

本件による2025年12月期の連結業績見通しへの影響はありません。

以上

注記

アミロイド β ($A\beta$) とタウタンパク質

アルツハイマー型認知症の主要な原因物質は、 $A\beta$ とリン酸化タウタンパク質です。アルツハイマー型認知症の病態は、脳内における $A\beta$ の蓄積が引き金となり、タウタンパク質の過度なリン酸化と凝集が促進されることで進行します。その結果、神経細胞死が起こり、認知機能の低下につながるということが知られています。

単純ヘルペスウイルス1型 (HSV-1)

HSV-1は、成人の半数以上が感染しているウイルスです。一度感染すると神経細胞に潜伏感染し、免疫機能の低下などに伴い再活性化して病原性を発揮します。近年、多くの研究によりHSV-1の再活性化がアルツハイマー型認知症の症状を引き起こし、認知機能が低下することが示唆されています。また最近、帯状疱疹ウイルス (VZV) の再活性化がドミノ式にHSV-1を再活性化させることが報告されています。IV BCVはHSV-1およびVZVに対し、既存の抗ウイルス剤と比較して極めて高い抗ウイルス活性を示すことが確認されております。

軽度認知障害 (MCI)

MCIはアルツハイマー型認知症の前段階と考えられ、この患者群には軽度の認知機能障害が認められます。近年、MCIの段階における早期の診断と医療介入の重要性が指摘されています。アルツハイマー型認知症発症に関わるバイオマーカーに加え、HSV-1感染症のバイオマーカーや精密画像診断などを組み合わせることにより、より早期の診断と医療介入を可能にし、疾患の進行を抑制する鍵となります。

3本の治療領域を柱とした BCV の事業戦略

シンバイオ製薬は2019年9月にBCVのグローバルライセンスを取得して以来、そのポテンシャルを最大限に引き出すことを目的に、世界最高水準の研究機関とともに3つの治療領域で共同研究を進めてきました。現在は、①造血幹細胞移植後のウイルス感染症、②血液がん・固形がん、③脳神経変性疾患の3領域を事業の柱として、経営資源を重点配分し開発を加速しています。特に③では、進行性多巣性白質脳症 (PML) を含む可能性を見据えた研究・開発を検討しております。これらの取り組みを通じ、グローバルな事業展開によりBCVの事業価値の最大化を目指します。